

【報告者】ACジュニオール 内田桂太郎

1. 期日

2014年8月3日（日）～8月9日（土）

開会式：2014年8月3日（日） 閉会式：2014年8月9日（土）

2. 会場

開会式：御殿場高原時之栖 人工芝グラウンド（静岡県裾野市）

1次ラウンド～準々決勝：御殿場高原時之栖 裾野グラウンド（静岡県裾野市）

準決勝・決勝：愛鷹広域公園多目的競技場（静岡県沼津市）

3. 参加チーム及び登録人数

①都道府県大会を勝ち進んだ都道府県代表各1チーム計47代表及び前年度優勝チーム
枠（第37回優勝は茨城県）1チームの合計48チーム。

②「参加チーム」の構成は、選手16名以内、引率指導者6名以内とし、同一「加盟チーム」内の都道府県
大会で敗退したチームの選手を追加することができる。

4. 大会形式

① 48チームを12グループに分け、1次ラウンド（1グループ4チームのリーグ戦）

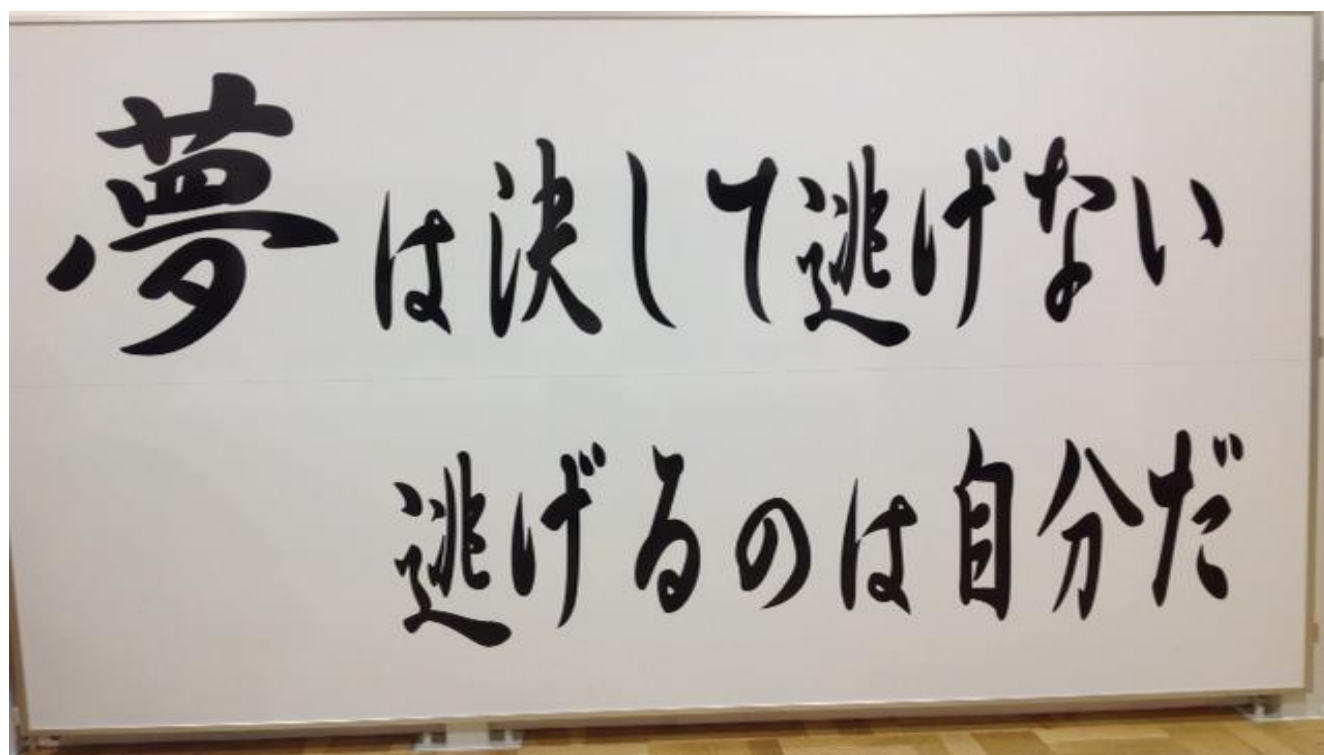
② 1次ラウンド各グループ上位2チーム、計24チームを8グループに分け、2次ラウ
ンド（1グループ3チームのリーグ戦）

③ 2次ラウンド各グループ1位チームは決勝トーナメントへ進出する。

④ 1次ラウンド各グループ下位2チーム、計24チームを8グループに分け、ドリームリーグ（1グループ3
チームのリーグ戦）

⑤ ドリームリーグ各グループ1位チームはドリームトーナメントへ進出

⑥ ハーフタイムは10分



5. 試合結果・戦評

1次ラウンド 2組

2組	田宮ビクトリー	フトゥーロ	平章SSS	ジュニオール	勝点	勝	分	負	得点	失点	得失	順位
田宮ビクトリー		1-2×	4-0○	2-1○	6	2	0	1	7	3	4	2
JFCフトゥーロ	2-1○		5-1○	0-0△	7	2	0	0	7	2	5	1
平章SSS	0-4×	1-5×		2-4×	0	0	0	3	3	13	-10	4
ACジュニオール	1-2×	0-0△	4-2○		4	1	1	1	5	4	1	3

第一戦 8月4日(月) 9:30~ vs 平章SSS (福井県) ○4-2 勝ち

全国大会初戦の緊張もなく前半からゆっくりとボールを繋ぎピッチを広く使った攻撃から相手の背後を突く攻撃でチャンスを作りコーナーキックから練習通りの得点が出来て波に乗ることが出来ました。相手のエースのドリブル突破からいくつかピンチになるも落ち着いてプレーすることが出来ましたが一瞬の隙からの失点は反省でしたが選手交代も出来たので初戦としてはまずまずの内容でした。



第二戦 8月4日(月) 14:30~ vs JFCフトゥーロ (神奈川県) △0-0分け

神奈川県との激戦を勝ち抜いてきたチームで個人の身体能力を活かした攻撃と深く激しい守備が特徴のチームでした。事前にスカウティングが出来ていたので相手の特徴などを把握出来ていた事が良かったと思います。試合は終始、相手の畳みかけるような爆発的な攻撃を耐えてカウンターという流れでしたが、GKの素晴らしいセーブをはじめ全員が集中し競り負けずにきちんと対応出来ました。このような相手や試合状況にも臆することなくプレー出来たのはこれまでの関東遠征や事前の強化遠征等での経験が最大限活かされた試合となりました。



第三戦 8月5日(火) 9:30～vs田宮ビクトリー(徳島県) ×1-2 負け

初日を終え暫定首位でまずまずの出だしとなりましたが、相手の田宮ビクトリーは中心選手の3名のコンビネーションが抜群で一次ラウンドの中では1番強敵でした。四国地方で情報もなかなかない状況で、田宮は2次ラウンド進出には我々に勝つしかない状況でさらに難しい試合となりました。立ち上がりから相手の3枚の中心選手達に展開と崩しを繰り返されてなかなか捕まえきれない試合となりました。前日の試合で耐えるだけになってしまい、奪ってからの攻撃に確実性やテンポがなくカウンター主体の攻撃になってしまいました。前半に失点し後半はポジションを変えて同点に追いつくもFKのこぼれを押し込まれ勝ちこされてしまいました(明らかなオフサイドの見逃し) その後も必死に相手の攻撃に耐えカウンターを仕掛けましたが決定的なチャンスも僅かに外れ敗戦となりました。この結果、残念ながら1次ラウンド敗退となりドリームリーグとなりました。その後選手スタッフで協議しドリームリーグの目標設定を決めました。



ドリームリーグ J組

～ドリームリーグ予選リーグでは全員が出場してドリームトーナメント進出を目標～

～ドリームトーナメントで優勝・愛鷹のピッチへ～

J組	ジュニオール	オールサウス	一身田	勝点	勝	分	負	得点	失点	得失	順位
ジュニオール		1-1△	5-1○	4	1	1	0	6	2	4	1
オールサウス	1-1△		1-1△	2	0	2	0	2	2	0	2
一身田	1-5×	1-1△		1	0	1	1	2	6	-4	3

第一戦 8月5日(火) 15:30～vsオールサウス(滋賀県) △1-1 分け

前半はサイドを変えながら攻撃するもボールを引き出す動きやパスした後の動き、全体の連動がなくリズム良い攻撃が出来ませんでした。ゴール前の混戦からのセカンドボールを見事なボレーで決められ失点、後半は相手の裏を突く攻撃が出始めて流れの中から同点。終盤は相手のカウンターから防戦になる時間もありましたがGKのファインセーブ連発で試合終了

第二戦 8月6日(水) 15:30～vs一身田FC(三重県) ○5-1 勝ち

午前中に試合が無く、ゆっくりすることが出来て疲労回復が出来た。落ち着きゆっくりとした試合運びが出来て順調に得点も奪えた。メンバー全員が出場することが出来てドリームリーグの目標を達成することが出来たが、負傷退場のアクシデントがあり腫れが酷く翌日への不安が残った試合でした。この時点で4泊5日目で選手の疲労感が色濃くなってきました。

～ドリームリーグ1位でドリームトーナメントへ



ドリームトーナメント

ベスト8 8月7日(木) 9:30～vsバレンティアFC(和歌山県) ●0-1 負け

久しぶりに朝から晴れて気温があがり、全国大会期間中で最高気温になりました。前半は押し気味の試合展開でしたが連動した動きがなく単発な攻撃になりがちでした。パスを出した後の動きが無く仲間を追い越す動きも少なく、崩しの場面で人数が少ない状況でした。

後半も暑さと蓄積した疲労もあってか決定的な場面で決めきれない事が続き相手のカウンターから失点。その後も必死に攻撃をしましたがゴール前での精度に欠き敗戦。選手たちは全ての試合を全力で準備し臨みましたが疲労感が抜けきらず最後は自分達らしさを出し切ることが出来ずに残念ながら公式戦は終了しました。その日の朝の朝食が6:00でしたが全員が起きることが出来ませんでした。強化遠征等で連泊や1日に数試合の強化をしてきて、疲労が溜まった中で遠征はある程度慣れていましたが6日目のゲームは未知の経験でした。

6.今大会の成果と課題

攻撃

- 個人 成果：局面の打開、突破の部分ではある程度通用した部分が多かった。フィジカルに勝る相手にも相手の逆を取るドリブルや積極的に縦に仕掛ける意識を高く持てた事、ボールの持ち方やプレーする足の使い分けは普段からのトレーニングで口うるさく練習した
課題：ゴール前でのフィニッシュの精度、状況に合わせて左右の足でのシュートやパス、ギリギリの状況でプレーを変える判断力と技術力、一瞬の閃きやスピードアップは今後の課題
- チーム 成果：ある程度主導権を握ったゲームは落ち着いて幅と深さを使い、また相手の背後を狙うプレーが多く出来た、以前はそれほど得意ではなかったCKのバリエーションや得点も増えた。GKからの速攻も得意な形となった
課題：フィジカルが強く厳しいプレッシャーの中での連動・連続・持続したパスワークが途切れる事があり、取り敢えず相手の背後への縦パスを出してしまう事やそのパスに対してのサポートや仲間を追い越す動きが少なかった。ボール保持者の状況に合わせてのポジション取りと相手の背後を取る動きが課題

守備

- 個人 成果：ヘディングの競り合い、浮き球の処理、インターセプト、局面での競り合い等は普段のトレーニングからかなりの反復を行いました。強化遠征等でも球際に厳しくプレーする事に共通意識を持てたことで1vs1の局面でも粘り強く競り勝てるようになりました。
課題：チャレンジ&カバーの部分で疲労が溜まった状況では集中力が途切れてしまう事があり簡単なワンツーで突破されることがあった足が止まり前後のステップワークが続かないことは身体能力にも関係するが上位のチームは連戦の中でも途切れずに出来ていた
- チーム 成果：連動し連動した守備と前後のプレスバック、両サイドのカバーリングなどは非常に機能していて自信を持ってプレー出来ていた。お互いのコーチングが途切れずに的確に時に強く指示が出せていた部分も今回の成果と言える
課題：セットプレーのセカンドボールへの対応やシュートを打つ相手に対しての寄せとラインの押し上げをもっと早くしなければいけない

切り替え

攻撃から守備への切り替えはある程度意識出来たが、守備から攻撃の際に確実に味方に繋げなかったり、タメを作れずにサポートや追い越す動きが少なくなる場面があった。

GK

準決勝終了後の指導者講習会にてGKの報告があり、シュートストップと優先順位を判断したキックの2つのプレーが良かったプレーとしてジュニオールの泉竜聖のプレーが取り上げられていました。JFCフットーロ戦、田宮ビクトリー戦は相手の攻撃をきちんと受け止めてからのカウンターを試合展開になり、GKとしては正しいポジショニングでのシュートストップ、ボールをキャッチ後に素早く状況判断と優先順位を考えたフィードが求められましたが、常に良いポジショニングからのキャッチなのか弾くのかの判断がきちんと出来ていました。またコーナーキックからのキャッチや弾くプレーも多く見られる様にピンチを防いでいました。オールサウスとの試合の中ではカウンター攻撃を受けてGKと1 v s 1の状況もありましたがギリギリまで動かさずセーブ出来た場面もありました。キャッチした後も単に繋ぐのではなく味方と相手の状況に合わせてキックも使い分けが出来ていました。

シュートストップやコーナーキックの守備に関してはGKコーチとのトレーニングの中で徹底した反復練習で身に付けた感覚の成果と言えます。この年代でもきちんとした反復練習の中でシュートを打たれる瞬間の前後のポジショニングや足元のボールをキャッチする感覚を身に付ける重要性を再認識しました。

審判

今回の全国大会でもユース審判の研修の場として活用されていました。

その中で感じた事が2つありました。一つ目は数多くの練習試合を重ねて激戦の県大会を競り勝つての全国大会であるが、県・地区予選でもあり得ない様な酷い審判のジャッジに違和感がありました。トレセン等では強く激しい競り合いの中でも簡単に倒れずに強く逞しい選手の育成を推奨していますが、僅かな接触でもファールを取られ、お互いが競り合う場面が少なかった事は対戦相手や他のチームの指導者とも話題になりました。1次リーグは1人審判制で2次リーグ以降とドリームリーグ・トーナメントは3人制と大会期間中に人数が変わった事にも不自然さを感じ本部の技術と審判の方に審判の期間中に人数が変わることに協会としての考えを伺ったところ1次リーグよりも2次リーグの方が上位につながる試合の為にとの返答でしたが、1次リーグで完全なるオフサイドの見逃しがあり、その失点で1次リーグ敗退となった事や、3人制であっても負傷退場になり医務室に運ばれるようなプレーでも見逃しがあり、人数に限らず審判レベルに問題があることに疑問を持ちました。決してユース審判や1人審判を否定するのではなく、ユース年代の審判講習会を非常に大切なことと理解しておりますが全国大会に行わなくとも良いのではと感じました。また人数についても当初の8人制1人審判で全てを統一する方が良いのか、もしくはダノンカップのような方法もあるのではないかと思います。経験・技術の低いユース審判に1人でという大会のレギュレーションの部分に問題があると思いました。



生活面

普段の練習や遠征の中で自分の事は自分でやる、自ら考えて率先して行動する、荷物と時間の管理を仲間同士で意識して生活する等々、常にお互いを思いやり、仲間とチームの為に自分がどのような振る舞いをするべきか、長く共同生活を共にしてきた習慣が基になり普段の遠征と同様もしくはそれ以上にストレスなく長期間の宿泊がこなせたことは今回の全国大会での一番の成果であり全国大会を戦う必須条件と感じました。食事の量や好き嫌いなどにも意識を高く持ち自分なりの努力をしている選手が多く、大会期間中の人間的・精神的な成長も多く感じられました。期間中は気温も上がらず過ごしやすい気候だった為、長期の大会で危惧していた体調不良者も出ることもありませんでした。午前中に試合がある日の朝食は6：00とハードな部分もありましたが、宿泊場所と食事会場とアップや試合会場への移動もストレスなく過ごせました。お風呂が新しい檜のお風呂で選手たちは日々の疲れをゆっくりとりリラックス出来たと思います。

宿舎では他県の選手や対戦相手との交流もあり多くの友達が全国に出来ました。最終日には隣部屋のSSS札幌の選手と涙ながらに別れを惜しみバーモントカップ全国大会での再会を約束する選手もいました。最後日前夜には大会の公式行事であるリスペクトワークショップが開催されて普段お世話になっている方へのお手紙の書き方を学び、富士山の形のハガキにそれぞれに感謝の気持ちを綴りました。全日程参加型の長期間の大会でしたが様々な経験を通じ成長し全国に多くの友達が出来た事は生涯に残る素晴らしい思い出になったと思います。



7. 全国大会までの取り組み

①県大会からのリフレッシュ

宮城県大会までに長期間での強化・遠征で疲労した心身と、個人・チーム全体の調子の波を整えるために県大会終了後、1つの招待大会以外は約4週間をオフにしてリフレッシュをすることで、全国大会にむけてサッカーをしたいという欲求を高め、全国大会へ新たに心身とチームを作っていました。このオフで怪我の治療や心身の疲労回復がきちんと出来た事が良かったと思います。

②強化遠征と暑さ対策

県大会までに強化の遠征を重ねてきたために短期間で調子が戻るとの予測で大会一週間前に関東へ遠征に行き、ばらきや江南南などの全国の強豪や全国大会に出場するアントラズ・ファナティコス・オオタFCなどと炎天下の中強化試合を行い暑さ対策とチーム全体の再強化を図りました。強豪チームとの刺激で短期間で本来の調子に近づいた事はこれまでの様々な経験の中でコンディショニングを少しずつコントロールできるようになってきた成果と感じます。

③移動について

静岡までの移動は長距離と夏場という事で新幹線と在来線を利用しました。普段はバスでの移動で、車中泊も経験しているが選手スタッフの疲労と遠征期間の増加や荷物等を考えてのバス移動でしたが慣れない公共の機関を利用した移動はスタッフは快適でしたが、選手たちは乗り降りや車内で自由が制限されるためにバスでの移動が良かったとの声が出た事は笑い話です。

④現地にて

普段は選手自身が自ら準備片づけ等をするため父兄との関わりが少ないのですが家庭を離れて長期間遠征の緊張を少し和らげるために試合後に選手と父兄との時間を僅かではあるが取ることでリフレッシュを兼ねた思い出の時間を作った。

最後に

今回の全国大会出場にあたり、宮城県サッカー協会様をはじめ、宮城県サッカースポーツ少年団協議会様、仙台市スポーツ少年団協議会様、泉ブロック様、ミヤギテレビ様、全国大会出場と強化のためご協賛を賜りました企業様と個人様、チームの在団生・卒団生、強化遠征や日頃よりご指導いただいております宮城県内外の全ての関係者の皆様、そして、普段から選手を傍で支え、大会期間中平日にも関わらず遠方までお越しいただき温かい声援を送り続けてくれた保護者の皆様と、熱く細やかやご指導を頂きましたスタッフにこの場をお借りして心より感謝・御礼申し上げます。

今後ともACジュニオール活動にご指導ご鞭撻を賜ります様何卒宜しくお願い申し上げます。

